

古文「品詞分解」100題ドリル | 無料PDFと解答付き 解答・解説編

- Q1. ▶ 答え：イ 「今は（ネ）昔（ネ）…」と区切るかたまりが文節。品詞分解はまず文節に分けることから始める。
- Q2. ▶ 答え：ウ 文節の頭に立つのが自立語。名詞・動詞・形容詞・形容動詞・副詞など。
- Q3. ▶ 答え：ア 自立語は1文節に必ず一つ。付属語は0個のことも、いくつも続くこともある。
- Q4. ▶ 答え：エ 単独では使えず、自立語の後ろにくっついて意味をそえる二つ。
- Q5. ▶ 答え：ア 「けり→けら・けり・ける…」と形が変わるのが助動詞。助詞は形が変わらない。
- Q6. ▶ 答え：イ 用言＝活用する自立語の三つ。
- Q7. ▶ 答え：ウ 体言＝名詞。「下に体言が続けば連体形」の形でよく使う用語。
- Q8. ▶ 答え：ア 活用せず、下の用言「うつくし」を修飾する自立語＝副詞。
- Q9. ▶ 答え：エ 「し」で言い切る、活用する自立語＝形容詞。
- Q10. ▶ 答え：ア 「なり」で言い切り、状態・性質を表す自立語＝形容動詞。
- Q11. ▶ 答え：イ 活用せず、体言「人」だけを修飾する＝連体詞。
- Q12. ▶ 答え：ウ 「そうであるから」と文と文をつなぐ自立語＝接続詞。
- Q13. ▶ 答え：ア 「ああ」と感動を表して独立する語＝感動詞。
- Q14. ▶ 答え：エ 活用しない付属語＝助詞（下の名詞を修飾する格助詞）。
- Q15. ▶ 答え：イ 活用する付属語＝助動詞。過去（～た）の意味をそえる。
- Q16. ▶ 答え：ウ ものの名前を表す自立語＝名詞（体言）。
- Q17. ▶ 答え：イ 「うつくし」（形容詞）、「静かなり」（形容動詞）。言い切りの形で品詞が分かる。
- Q18. ▶ 答え：エ 「いと」「やうやう」など。イは連体詞、ウは感動詞。
- Q19. ▶ 答え：ウ 活用する付属語＝助動詞。打消（～ない）の意味をそえる。
- Q20. ▶ 答え：ア 「だんだん」の意。活用せず、用言「白くなりゆく」を修飾する副詞。
- Q21. ▶ 答え：ア 未然・連用・終止・連体・已然・命令。この順で必ず覚える。
- Q22. ▶ 答え：ウ 「ず」は未然形につく。「ず」の上は自動的に未然形と決まる。
- Q23. ▶ 答え：エ 「き・けり・つ・ぬ・たり・けむ・たし」は連用形につく組。
- Q24. ▶ 答え：イ 体言に連なる形だから連体形。
- Q25. ▶ 答え：エ 已然形＋ば＝確定条件（風が吹くので・吹くと）。
- Q26. ▶ 答え：ア 未然形＋ば＝仮定条件（もし風が吹いたら）。Q25と対で覚える。
- Q27. ▶ 答え：イ 下の「けり」が連用形につく助動詞だから。
- Q28. ▶ 答え：ウ 文末で言い切る形＝終止形（係り結びがない普通の文）。
- Q29. ▶ 答え：エ 下に体言「花」。終止形と同じ形でも、下を見て連体形と決める。
- Q30. ▶ 答え：ア 文末で命令して言い切っている＝命令形。
- Q31. ▶ 答え：ウ 接続助詞「て」は連用形につく。
- Q32. ▶ 答え：イ 下の「ず」が未然形につく助動詞だから。
- Q33. ▶ 答え：ア 下に体言「花」が続く形容詞の連体形。

- Q34. ▶ 答え：イ 下に体言「夜」が続く形容動詞の連体形。
- Q35. ▶ 答え：イ 下の用言「過ぐ」に連なる形容動詞の連用形。
- Q36. ▶ 答え：ウ 「ぞ・なむ・や・か」の結びは連体形。
- Q37. ▶ 答え：エ 「こそ」の結びは已然形。
- Q38. ▶ 答え：イ 係助詞「ぞ」の結びで、過去「けり」が連体形「ける」になっている。
- Q39. ▶ 答え：ア 「こそ」の結びだから已然形。命令形と同じ形だが、係り結びで判断する。
- Q40. ▶ 答え：ウ 下の「む」が未然形につく助動詞だから。
- Q41. ▶ 答え：エ 下の「けり」が連用形につく助動詞だから。終止形と同じ形でも下で決める。
- Q42. ▶ 答え：ア 四段動詞は終止形と連体形が同形。下に体言「者」が続くので連体形。
- Q43. ▶ 答え：イ 「らむ・べし・らし・めり・まじ・なり（伝聞・推定）」は終止形につく組。
- Q44. ▶ 答え：ウ 「べし」は終止形につく（「行く」は四段動詞）。
- Q45. ▶ 答え：ア 「あり」はラ行変格活用。「べし」はラ変型の語には連体形につく。
- Q46. ▶ 答え：エ 「死ぬ」はナ行変格活用。下の「む」が未然形につくから「死な」は未然形。
- Q47. ▶ 答え：ア 「けり」は連用形につく。「死なむ（未然）」「死にけり（連用）」を対で覚える。
- Q48. ▶ 答え：ウ 他への願望の終助詞「なむ」は未然形につく。
- Q49. ▶ 答え：イ 「て」は連用形につく。「見る」は未然形・連用形が同形だが、下の「て」で決まる。
- Q50. ▶ 答え：エ 後ろの言葉（助動詞・助詞・体言など）が活用形を決める。これが品詞分解の最大の武器。
- Q51. ▶ 答え：イ あり（動詞）／けり（助動詞）。動詞と助動詞は必ず切り分ける。
- Q52. ▶ 答え：ウ 咲き／に（完了「ぬ」の連用形）／けり。「に」を見落とさない。
- Q53. ▶ 答え：ア 花／の（格助詞）／色。助詞も一語と数える。
- Q54. ▶ 答え：イ 名詞／格助詞／動詞（連体形）／名詞の四語。助詞を独立させる。
- Q55. ▶ 答え：ア 庭／の／桜／散る。文節は「庭の／桜／散る」の三つだが、単語は四つ。
- Q56. ▶ 答え：ア 二つの動詞が合体した複合動詞で、全体で一語。
- Q57. ▶ 答え：エ 接頭語は単語として切り離さない。「うち泣く」で一語。
- Q58. ▶ 答え：ウ 状態を表して「なり」で言い切る形容動詞。「なり」まで含めて一語。
- Q59. ▶ 答え：ア 静かなら（形容動詞の未然形）／ず（打消の助動詞）。
- Q60. ▶ 答え：ウ 「～であったなあ」。「なりけり」は必ず二語に分ける。
- Q61. ▶ 答え：エ 「言わなかった」。ざり（ず）＋けり、と助動詞が二つ並んでいる。
- Q62. ▶ 答え：ウ べかり（「べし」の連用形）／けり。
- Q63. ▶ 答え：ウ 行き／たり（完了）／けり（過去）。助動詞は続けて並ぶ。
- Q64. ▶ 答え：イ 知ら／ざり／けり。動詞一語＋助動詞二語。
- Q65. ▶ 答え：イ 名詞／格助詞／動詞（連用形）／接続助詞の四語。「て」も一語。
- Q66. ▶ 答え：ウ 竹／を／取り／つつ。「つつ」は反復・継続の接続助詞で一語。
- Q67. ▶ 答え：イ よろづ／の／こと／に／使ひ／けり。「けり」の上の「使ひ」は連用形。

- Q68. ▶ 答え：ウ 今／は／昔／竹取／の／翁／と／いふ／者／あり／けり、の十一語。
- Q69. ▶ 答え：ア うつくしから（形容詞の未然形）／ず。形容詞の活用語尾は切らない。
- Q70. ▶ 答え：イ あら（ラ変「あり」の未然形）／ず。
- Q71. ▶ 答え：ウ 思ひ（動詞の連用形）／けり。
- Q72. ▶ 答え：イ 複合動詞で一語。「思ひ出づ」と同じ仲間。
- Q73. ▶ 答え：イ 山／に（場所を示す格助詞）／あり。
- Q74. ▶ 答え：エ 「悲しけれ」は形容詞の已然形でまるごと一語。活用語尾を切らない。
- Q75. ▶ 答え：ア 寒かり（形容詞の連用形）／けり。
- Q76. ▶ 答え：イ あはれなり（形容動詞の連用形）／けり。「夢なりけり」（夢／なり／けりの三語）と違い、形容動詞は「なり」まで一語。
- Q77. ▶ 答え：イ 春／は（係助詞）／あけぼの、の三語。
- Q78. ▶ 答え：ア 庭／に（格助詞）／なし（形容詞）。
- Q79. ▶ 答え：ウ 全体で一語化した形容詞。「し」で言い切る。
- Q80. ▶ 答え：ウ 花／咲き／ぬ／べし。助動詞「ぬ」「べし」をそれぞれ一語と数える。
- Q81. ▶ 答え：ア 連用形「咲き」につくので完了。「咲いてしまった」。
- Q82. ▶ 答え：ウ 未然形「咲か」につき、下に体言「花」。「咲かない花」。
- Q83. ▶ 答え：イ 接続がすべて。完了「ぬ」は連用形に、打消「ず」は未然形につく。
- Q84. ▶ 答え：ウ 未然形「行か」につく「ね」＋ば＝「行かないので」。
- Q85. ▶ 答え：ア 連用形「行き」につくので完了系。「早く行ってしまえ」。
- Q86. ▶ 答え：エ 体言「夢」につくので断定。「これは夢である」。
- Q87. ▶ 答え：ア サ変の終止形「す」につくので伝聞・推定。「男が書くという日記」。
- Q88. ▶ 答え：イ サ変の連体形「する」につくので断定。「してみようと思ってするのである」。
- Q89. ▶ 答え：イ 状態を表す一語の形容動詞の言い切り。「静か＋なり」と切らない。
- Q90. ▶ 答え：ア 連用形「散り」につき、下に「けり」。「散ってしまった」。イは格助詞、ウは形容動詞の活用語尾、エは断定。
- Q91. ▶ 答え：イ 「に＋こそ＋あれ（あり）」＝「～である」と訳せる「に」は断定。
- Q92. ▶ 答え：ウ 連用形「見」につき「見た人」と訳せる。ア・エは形容詞の一部、イは強意の副助詞。
- Q93. ▶ 答え：エ 「思ひ出づ」など心情の動詞につく「る・らる」は自発（自然と～される）。
- Q94. ▶ 答え：ア 「童に」とさせる相手がいて、下に尊敬語がない→使役。「書かせる」。
- Q95. ▶ 答え：ウ 下に尊敬語「たまふ」を伴う「せたまふ」＝最高敬語。帝自身の動作なので尊敬。
- Q96. ▶ 答え：ア 自分の動作について「花を見よう」。未然形「見」につく。
- Q97. ▶ 答え：イ 連用形「あり」につき、文末で言い切る終止形。「～たのだった」。
- Q98. ▶ 答え：エ 連用形「咲き」につく。「ぬべし」＝きっと咲くだろう（強意＋推量）。
- Q99. ▶ 答え：エ 「三寸ほどである人」。下に体言「人」が続く断定「なり」の連体形。
- Q100. ▶ 答え：ウ 風／吹け（已然形）／ば／花／散り／ぬ／べし、の七語。100問おつかれさまでした！